Powered by Vivliostyle

文体操舵録



『文体の舵を取れ』練習問題の手帳

ayhy

2

この本は『文体の舵をとれ ル=グウィンの小説教室』(2021)の課題を一個人が実施したものをまとめた制作物です。版元とは一切の関係がありません。

この作品はフィクションです。作中に登場する人物、団体、場所、 出来事はすべて架空のものであり、実在する人物、場所、出来事と は一切の関係がありません。

問三3b 傍観型の語り手??問一3a 三人称限定①??	視点と語りの声3??	問三2b 傍観型の語り手??	三人称	問一2a 三人称限定②??	視点と語りの声2??	. :	- 1	序:	自分の文のひびき??		目次	
	問三6b 傍観型の語り手??	問一6b 三人称限定①??	問一6a 三人称限定②??	視点と語りの声6?	問三5b 傍観型の語り手	問一5b 三人称限定①	問一5a 三人称限定②	視点と語りの声5??	問三4b 傍観型の語り手??	問一4b 三人称限定①	問一4a 三人称限定②	視点と語りの声4

 \oplus

問三9b 傍観型の語り手??	問一9b 三人称限定①??	問一9a 三人称限定②??	視点と語りの声9??	問三8b 傍観型の語り手??	問一8b 三人称限定①??	問一8a 三人称限定②??	視点と語りの声8?	問三7b 傍観型の語り手??	問一7b 三人称限定①??	問一7a 三人称限定②??	視点と語りの声7??
問三12b 傍観型の語り手??	問一12b 三人称限定①??	問一12a 三人称限定②??	視点と語りの声12??	問三11b 傍観型の語り手??	問一11b 三人称限定①??	問一11a 三人称限定②·??	視点と語りの声11??	問三10b 傍観型の語り手??	問一10b 三人称限定①·??	問一10a 三人称限定②·??	視点と語りの声10??

問三	問	問	視点	問	問	問	視点点	問三	問	問	視点点
15b	15b	15a	点と語り	問三14b	14b	14a	点と語り	13b	13b	13a	点と語り
傍観型	三人	三人	の声 15	傍観型	三人	三人	の声14	傍観型	三人	三人	の声 13
型の語	人称限定	三人称限定②	5	型の語	人称限定	三人称限定②		型の語	人称限定	三人称限定②	
語り手	定	②	:	語り手	定	②	÷	語り手	定 ①	②	;
Ť	1	1	- :	-	1	1	1	-	1		1
÷	÷	1	- :	÷	÷	÷	1	÷	÷		
	÷	1	-		÷	1	÷			÷	
÷	1	1	-		1	÷	1	÷	÷		:
??	??	??	??	??	??	??	??	??	??	??	??
問三18b 傍観型の語り手	問一18b 三人称限定①	問一18a 三人称限定②	視点と語りの声18	問三17b 傍観型の語り手	問一17b 三人称限定①	問一17a 三人称限定②·-	視点と語りの声17	問三16b 傍観型の語り手	問一16b 三人称限定①	問一16a 三人称限定②·-	視点と語りの声16
18b	一18b 三人称限定	一18a 三人称限定	視点と語りの声18	17b 傍観型の語り	一17b 三人称限定	一17a 三人称限定	視点と語りの声17	16b 傍観型の語り	一16b 三人称限定	16a 三人称限定	視点と語りの声16
18b	一18b 三人称限定	一18a 三人称限定	視点と語りの声18	17b 傍観型の語り	一17b 三人称限定	一17a 三人称限定	視点と語りの声17	16b 傍観型の語り	一16b 三人称限定	16a 三人称限定	視点と語りの声16
18b	一18b 三人称限定	一18a 三人称限定	視点と語りの声18	17b 傍観型の語り	一17b 三人称限定	一17a 三人称限定	視点と語りの声17	16b 傍観型の語り	一16b 三人称限定	16a 三人称限定	視点と語りの声16
18b	一18b 三人称限定	一18a 三人称限定	視点と語りの声18??	17b 傍観型の語り	一17b 三人称限定	一17a 三人称限定	視点と語りの声17	16b 傍観型の語り	一16b 三人称限定	16a 三人称限定	視点と語りの声16??

問三20b 傍観	問一20b 三人	問一20a 三人	視点と語りの声20	問三19b 傍観	問一19b 三人	問一19a 三人	視点と語りの声19
型の語り手・・・	称限定①	* 秋限定②		型の語り手・・・	称限定①	新限定②	9
??	??	??	??	??	??	??	??

合評会でご一緒した皆様に心より御礼申し上げます。

自分の文のひびき

F

ますが、ワークショップの本によっては美術展示の解書かれた文に意図を説明するのは野暮と言われてい

をセットとした合評会の設計もあります [1] 。その場説のように作者が予め作品と合わせて解説を出すこと

み手への答え合わせになるでしょうか。ます。本文の後に置く場合は合評へのレスポンス、読図が達成されたかという観点で突っ込んだ合評になり設ければ、参加者は予断をもって文章を読み、その意設ければ、参加者は予断をもって文章を読み、その意

やないんだけど。取り消し線を沢山引きながら、

す。 探りで何も考える余裕がなかったのが正直なところで一章の第一問、第二問とやっている間はとにかく手

Ξ"The anti-racist writing workshop the anti-racist writing workshop" (F. R. Chavez, 2021) ↔ ω

でいる。どう考えても、何かを書くのに向いた環境じなかったって思い知らされる。胃が重い。重すぎて、なかったって思い知らされる。胃が重い。重すぎて、いっかかったままの焦げた気球がいつになっても小さくならない。だから目を逸らすように下を向いて、鞄にはいる。どう考えても、何かを書くのに向いた環境になっている。どう考えても、何かを書くのに向いた環境である。とう考えても、何かを書くのに向いた環境である。とう考えても、何かを書くのに向いた環境である。

に、金属体の骨格を再利用した幌馬車は振動を伝えやすい。20キャンバス地と木造の骨組みを使った旧大陸の幌馬車以上ぎりは、本当のことはすぐわかるけど。起きなかったぎりは、本当のことはすぐわかるけど。起きなかったとを書く気はない。ただ何もかもが失敗した訳じゃことを書く気はない。ただ何もかもが失敗した訳じゃとか「いい思い出になった」って話せる台本を作ってとか「いい思い出になった」って話せる台本を作って

文体操舵記録

えない。

し伝いながら海面へと戻った。跳ねた白蛟を空気は支

床板は白蛟のを強かに打ち付けたが、閉じた

白蛟は意を決すると、肢を揺らして殻のふちにかけた ある。白蛟の、ましてや子ひとりの重さでは沈むまい 中身が戻り、橋が下り坂になるのはずっと先のはずで けでもないだろう? ないし、 日記だって、 起きたこと全部を書いているわ

話じゃなかったとも思うんだ。火トカゲのマーサが始 めて熱気球を打ち上げたときのことは。 気持ち。でも、多分、視点を変えれば、そんなに悪い もっと上手くやれたはずだった、というのは正直な

問二1

になる。 から水が抜け落ちては、 海面から躍り出る。全身は届かなかった。上体の龍紗。 はるずち、隣島への繋ぎ橋はまだ、上り坂のままである。 を叩いては緩んで広がった。ふたたび白蛟が床板を蹴 白 ば、 蛟の子は飛び上がり、沈みこんでは床板を蹴り、 跳ねとんだ下肢は陽ざしの下、床板へ向かう弧 龍紗が吐き出した水は、こんどは橋桁を濡ら 膚をぺたりと取り囲み、 水面

> に招かれて浮き上がる。がらんどうの島を見上げれば 新しい色を得る。ひとたびうつろになれば、島は空気 中身は白蛟たちの島に吐き出されて、混ざりあっては 島への道を渡る。その内側は、まだ空洞のはずである

のない色と形で手招きするように揺れていた。隣島に 中で育つ藻と珊瑚が隣島の殻を覆い、白蛟が見たこと き上がるような赤とも黄とも緑ともつかない。 紺青でもなく、水の纏う色ではない。生きた珊瑚の浮 めるだろう。水面近くの白藍でも、深みの溶けてい 坂を登り切って見下ろすなら、白と灰でない濃淡を認 死んだ珊瑚も同然に色あせていた。いま空気の側から によろめき、まろびながらも肢を整えては橋の上、 龍紗が下肢を保護していた。それでも白蛟の子は痛

視点と語りの声 2

問一 2a 三人称限定①

唸りに重なって、周期的に繰り返す。メトロノームみ しゅわん、と風を切る音がする。低いぶーんという

刺さる。行列を進んでいくたびに、音は大きくなって

たいに正確で、テストのときの秒針みたいに耳に突き

りと髪が逆立つあいだに、足下を半円リングが通り抜 駆けていった。沈み込んで大きく跳ねて、中空でふわ 列の先では、男がトランポリンに向かって小走りに

ける。隣のマットレスに着地して、男は出口に向かっ

ることは、悠にはまだ信じられない。

回転する金属の半円リングをジャンプして通り抜け

さっきまで並んでいた家族連れを悠は思い返した。

っちへ行きたかった。弟の手前でさえなければ。 バリアフリーの入場ゲートへ案内されていた。悠もそ やだと泣き叫び、 悠と大して歳も違わない子供は、あんなの無理、 でも弟はもう駆けだしていた。床面の矢印が点滅し 挙句両親もスタッフも手を上げて、 絶対

い五歩、つまり悠もそれぐらい。廊下を駆けるときの て先導する。大人だと大体三歩、弟の背丈ならだいた

る音がずっと右から下から左から――そして膝に足 駆けだして、視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切 なるのも一瞬だった。考える暇もなく、息を止めて、 リズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭に

けるのを見た。 る。悠は口を引き結び、振り向いて円リングが回り続 にマットレスの感触。 通り抜けた。無事に。みんなそうしてるみたいに。 膝と手を着いた着地をまじまじと見る弟をねめ つつけ

٤ していられるの? しも転んだりして当たったら。どうしてみんな平然と でも内側から見えた半円リングの頑丈そうな枠の残像 内側にずらりと並んだレンズ―― あんなの、

問一 2a 三人称限定②

部屋には低いモーター音が響いていて、靴裏からで

で描く球は啓が五人入ってもおつりがきそうだった。 ープよりも、ずっと大きい。半円のフレームが一回転 を変えないし、リングも一本、それも半分だけだ。 でも――啓が見たことのある本物のジャイロスコ

ジャイロスコープモドキは本物みたいにくるくる向き と、その間をぐるりと回る銀色の残像がのぞく。この れると、、綿シャツの背中の向こう側にフレーム基部 も力強さがわかる。啓が横に一歩踏み出して列からず

襟を引っ張る姉はいつもよりも不機嫌だ。こういうと

背中に感じる圧力に啓は振り返って、列に戻った。

での期間限定だけど。

着地した啓が出口に向かって歩きだすと、ぼすんと

わりを一回転して球をつくる。人が跳ぶとできる球は して向こう側を見ようとする。 助走をつけてジャンプすると、半円のフレームがま

遮るシャツの背中が減る。装置が遮られずに見える。 考える。ちゃんとバリアの中心にいるだろうか? バリアみたいだ。自分の番が来たときのことを、啓は 家族の一団が列から抜けて列が一気に進む。視界を

じられる。バリアってこういうことなんだ。次の人ま レンズがきらきらしている、その全部がコマ送りで感 回転するフレームのなめらかな音、フレームの内側で 啓は駆けだしていた。 トランポリンのばねで高くジャンプする。浮遊感と

12

知っていた。仕方ないので列から動かずに、首を伸ば

きの姉を刺激しないほうがいいことを、啓は経験から

って、啓は口をとがらせる。早く出口行こうよ。が合うのはなんだか気まずい。顔をそらした姉に向かいう柔らかい音がした。姉だ。着地を失敗した姉と目

◆ 問二 2a 遠隔型の語り手

サイクルキャプチャ©は、対象が動いてくるのを毎分回転8~48の範囲で回転している。かい5メートルに設置された軸受けで水平に保持され、かい5メートルに設置された軸受けで水平に保持され、

儀の弓を思い起こさせる半円の金属アーチは、差し向

サイクルキャプチャ©のアーチが回っている。

地球

こに踏み込んだ人間の重量と慣性を測定制御し、一定大縄跳びに近い。附帯設備の可動トランポリンは、そ―― 内部へ跳びこむことを要求する。図式としては

に突入する際の速度から映像中の重心位置を補正し、

アーチ内側の高速度カメラは一回転で30~40枚の人体の加速度になるよう補正して回転部へと打ち上げる。

を撮像する。

サイクルキャプチャ®は

《再構成圏内》

っている。

然よがら事女の可能生で勿義と譲して。ごが一隻で80個のカメラを把持する金属アーチの回転体は、カメラ映像から三次元形状を再構成する。

《生身のような没入感》をうたうVRアミューズメンを捌ける速度は同様のスキャナーの追随を許さず、然ながら事故の可能性で物議を醸した。だが一度に人

する銀の大縄へ跳びこみ、スキャンを終えて出ていく。超えたばかりの子供たちも、何事もない顔をして回転

クルキャプチャ®へ飛び込む親子連れも、年齢制限を

ト施設においてはほぼ必須の設備と化している。サイ

低速の静止スキャン設備へ案内するのが主な仕事になけずをない子供たち、跳びこむ動きが困難な利用者をは少ない。安全性に懸念を示す親や、怖がってジャンは少ない。安全性に懸念を示す親や、怖がってジャンはが多いの本来の使用者である常駐保安員のやることはがない。

った異音もなく、いまのところ安定していた。 先週交換したばかりのアーチ部は、事前に苦情のあ

◆

的とした場合、子供の視点を通して伝えるのは情報のと思います。未知の情報を読者に提示することを主目いう評をわりといただいた実作で、それはその通りだうのが問一段階では取りにくい(問二でわかった)とギミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、といギミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、とい

のだ。

一日ぶり十六件目。私は部屋に響き渡るぎゃんぎゃ 問三 2a 傍観型の語り手

整理がかなり大変だと思いました。

ートを蹴りつけ続け―――背中を椅子越しにリズミカその子供は届かない床に地団駄する代わりに前面のシ機内のことを思い起こさせる。何が気に障ったのか、の世の終わりのように泣き叫ぶ子供は、いつかの飛行のとした泣き声の発生源に、意を決して近づいた。こ

をなだめようとしている親が浮かべているのと同じもに目が合った両親の申し訳なさそうな表情は、今子供たかもしれない。一睡もできなかったけれど。着陸時ルに叩きつけられるのは、まあマッサージとでも思え

少し時間がかかりますが、という前置きして告げるメントパークに入れずに門前払いされては今日一日のメントパークに入れずに門前払いされては今日一日のメントパークに入れずに門前払いされては今日一日の成丘感を覚えたのか、彼らの顔が強張る。アミューズ・近づいてくる強面の制服を着た保安員、つまり私に近づいてくる強面の制服を着た保安員、つまり私に

髙橋さんに目配せをしてドアを開け、そちらの大掛かないドアに向かって親子連れを先導した。同シフトのようににっこりと笑うと、私は部屋の端にある目立たて赤くなった目でこちらを見上げてくる。安心させる

と、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らし

りな旧式スキャナの電源を入れる。 無事に親子が入場したのを見届けてドアから戻って

側を振り返ると、マットレスにカエルのように潰れて に女の子は立ち上がり、 女の子が倒れていた。反射的に支給のレシーバーに手 くると、ぼすんという大きな音がした。慌ててそちら

が伸びるが、救護センターへのホットラインを繋ぐ前 緒に歩いていた。 一緒に来たと思しき男の子と

だ大人の子供のスキャンし、その現し身をデータ世界

並んだカメラがきらきらと照明を反射して、飛び込ん 国、飾り立てられた非日常への門。銀の半円リングに 虹をくぐった先の魔法の国、霧を抜けた先の不思議の

私は息を吐き出した。この職場はあまり心臓によく

ったかもしれない。 いう動きは、たしかに一番大きなアトラクションであ

動かす機会は多くない。このジャンプして飛び込むと いものだ。VRアミューズメント施設では実際に体を に送る。その動き自体が、日常生活では目にかかれな

く球の中央を通る。しかし時折、 正するのでだいたいの人間はきれいに半円リングの み台代わりのトランポリンが打ち上げ角度と速度を補 飛び込んでいく客を保安員が見守っている。

ルな電飾のような愛嬌はない。しかしそこは既にアミ

エントランスは殺風景で、出口ドアから覗くカラフ

問 ! 四 2 a

潜入型の語り手

ューズメントパークの園内である。

銀の半円リングが回っている。

その回る動きも、すでに入場料を払っているのだか

や、

ら、アトラクションの一部と言えなくもない。 それは

非日常へと向かう装置で、来園者の期待を掻き立てる

おっかなびっくりすぎて勢いの足りない大人達は 勢いあまった子供達

リングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カリングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カリングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カリングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カリングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カリングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カリングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カリングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カリングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カリングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カリングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カリングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カリングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カリングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カリングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カリングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カリングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カリングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点力

ります」

いので、広告用の園内写真もない。サイクルキャプチずんだ枠となって残っている。アトラクションではなエントランスは殺風景で、撤去された機材の跡が黒

アで保安員を配置するよう記されている。

「わざわざこちらまでいらして頂き本当に感謝してお当事者の記憶の中にある。それこそが、唐木田がこの当事者の記憶の中にある。それこそが、唐木田がこの当事者の記憶の中にある。それこそが、唐木田がこの

れた線を隠しきれてはいない。化粧でも、やつげて緑のジャケットの女性が頷いた。化粧でも、やつ

唐木田が振り返ると、機材の跡の染みから目線を上

ンスのスキャナールームとレセプションの両方を担当無理もない。高橋という名の元従業員は、エントラ「当日の様子を話していただけますか?」

といったかが部屋を外しているときの出来事だった。者は彼女だったのだ。もう一人の保安員、たしか宮垣み割り当てられているが、事故が起きた時の第一応答

していた。当時のシフト表ではスキャナールームにの

いた。 かった。少なくともその点で、二人の利害は一致してかった。少なくともその点で、二人の利害は一致した三を引き出すことができなければ、あと数年はもつれめぐる訴訟は続いている。唐木田がこの場で有効な証

まだサイクルキャプチャの開発元と、事故の責任を

いく。刺さる。行列を進んでいくたびに、音は大きくなって刺さる。行列を進んでいくたびに、音は大きくなってたいに正確で、テストのときの秒針みたいに耳に突き

『云この登号)4月-->ボージャンパンに負ってすて歩いていく。 ける。隣のマットレスに着地して、男は出口に向かっりと髪が逆立つあいだに、足下を半円リングが通り抜

駆けていった。沈み込んで大きく跳ねて、中空でふわ

列の先では、男がトランポリンに向かって小走りに

ることは、悠にはまだ信じられない。回転する金属の半円リングをジャンプして通り抜け

の事例が念頭にありました。回転体に人間を接触させ

余談ですが、

書いているときは過去の回転ドア事故

悠と大して歳も違わない子供は、あんなの無理、絶対さっきまで並んでいた家族連れを悠は思い返した。

でも弟はもう駆けだしていた。床面の矢印が点滅しっちへ行きたかった。弟の手前でさえなければ。バリアフリーの入場ゲートへ案内されていた。悠もみやだと泣き叫び、挙句両親もスタッフも手を上げて、

唸りに重なって、周期的に繰り返す。メトロノームみ

しゅわん、と風を切る音がする。低いぶーんという

なり高速化しているので特段優位性もなさそうです。即禁止されるものです。現実の3Dスキャン技術はかこんなアホみたいなシステムの装置は人が死ぬ以前にるのは大変危険なので安全管理は徹底されるべきだし

問一 2b 三人称限定①

にマットレスの感触。 にマットレスの感触。 にマットレスの感触。 にマットレスの感触。 にマットレスの感触。 にマットレスの感触。 にマットレスの感触。 にマットレスの感触。 にマットレスの感触。 にマットレスの感触。

けるのを見た。 る。悠は口を引き結び、振り向いて円リングが回り続を手を着いた着地をまじまじと見る弟をねめつけ

通り抜けた。

無事に。みんなそうしてるみたいに。

しも転んだりして当たったら。どうしてみんな平然とと、内側にずらりと並んだレンズ―― あんなの、もでも内側から見えた半円リングの頑丈そうな枠の残像

していられるの?

問一 2b 三人称限定②

て先導する。大人だと大体三歩、弟の背丈ならだいた

れると、、綿シャツの背中の向こう側にフレーム基部も力強さがわかる。啓が横に一歩踏み出して列からず部屋には低いモーター音が響いていて、靴裏からで

ジャイロスコープモドキは本物みたいにくるくる向き

と、その間をぐるりと回る銀色の残像がのぞく。この

知っていた。仕方ないので列から動かずに、首を伸ばきの姉を刺激しないほうがいいことを、啓は経験からで描く球は啓が五人入ってもおつりがきそうだった。背中に感じる圧力に啓は振り返って、列に戻った。で描く球は啓が五人入ってもおつりがきそうだった。中門に感じる圧力に啓は振り返って、列に戻った。と変えないし、リングも一本、それも半分だけだ。

助走をつけてジャンプすると、半円のフレームがまして向こう側を見ようとする。

バリアみたいだ。自分の番が来たときのことを、啓はわりを一回転して球をつくる。人が跳ぶとできる球は

啓は駆けだしていた。 遊るシャツの背中が減る。装置が遮られずに見える。 家族の一団が列から抜けて列が一気に進む。視界を 考える。ちゃんとバリアの中心にいるだろうか?

での期間限定だけど。じられる。バリアってこういうことなんだ。次の人まじられる。バリアってこういうことなんだ。次の人まレンズがきらきらしている、その全部がコマ送りで感回転するフレームのなめらかな音、フレームの内側で

トランポリンのばねで高くジャンプする。浮遊感と

って、啓は口をとがらせる。早く出口行こうよ。が合うのはなんだか気まずい。顔をそらした姉に向かいう柔らかい音がした。姉だ。着地を失敗した姉と目が出口に向かって歩きだすと、ぼすんと

儀の弓を思い起こさせる半円の金属アーチは、差し向サイクルキャプチャ◎のアーチが回っている。地球◆ 問二 2b 遠隔型の語り手

サイクルキャプチャ®は、対象が動いてくるのを毎分回転8~8の範囲で回転している。

の加速度になるよう補正して回転部へと打ち上げる。こに踏み込んだ人間の重量と慣性を測定制御し、一定大縄跳びに近い。附帯設備の可動トランポリンは、そ――内部へ跳びこむことを要求する。図式としては

然ながら事故の可能性で物議を醸した。だが一度に人を撮像する。サイクルキャプチャ©は《再構成圏内》のメラ映像から三次元形状を再構成する。 カメラ映像から三次元形状を再構成する。 りん いっぱん 関係 は 一回転で 30~40枚の人体アーチ内側の高速度カメラは一回転で 30~40枚の人体

文体操舵記録

を捌ける速度は同様のスキャナーの追随を許さず、 、生身のような没入感》をうたうVRアミューズメン

クルキャプチャ©へ飛び込む親子連れも、年齢制限を する銀の大縄へ跳びこみ、スキャンを終えて出ていく。 超えたばかりの子供たちも、何事もない顔をして回転 ト施設においてはほぼ必須の設備と化している。サイ く人間を検知し静止するよう設定されており、緊急停 モーションセンサはトランポリンとアーチ部へ近づ

止ボタンの本来の使用者である常駐保安員のやること

った異音もなく、いまのところ安定していた。

先週交換したばかりのアーチ部は、

事前に苦情のあ

っている。

低速の静止スキャン設備へ案内するのが主な仕事にな プできない子供たち、跳びこむ動きが困難な利用者を は少ない。安全性に懸念を示す親や、怖がってジャン

と思います。未知の情報を読者に提示することを主目

いう評をわりといただいた実作で、それはその通りだ うのが問一段階では取りにくい ギミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、 (問二でわかった)

整理がかなり大変だと思いました。

的とした場合、子供の視点を通して伝えるのは情報の

・ 問三 2b 傍観型の語り手

機内のことを思い起こさせる。何が気に障ったのか、の世の終わりのように泣き叫ぶ子供は、いつかの飛行んとした泣き声の発生源に、意を決して近づいた。こ一日ぶり十六件目。私は部屋に響き渡るぎゃんぎゃ

をなだめようとしている親が浮かべているのと同じもに目が合った両親の申し訳なさそうな表情は、今子供たかもしれない。一睡もできなかったけれど。着陸時

ルに叩きつけられるのは、まあマッサージとでも思え

その子供は届かない床に地団駄する代わりに前面のシ

トを蹴りつけ続け

――背中を椅子越しにリズミカ

メントパークに入れずに門前払いされては今日一日の威圧感を覚えたのか、彼らの顔が強張る。アミューズ「近づいてくる強面の制服を着た保安員、つまり私にのだ。

予定もたたないだろう。とはいえ、私のような雇われ

ようににっこりと笑うと、私は部屋の端にある目立たて赤くなった目でこちらを見上げてくる。安心させると、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らしと、安堵にだらを追い出すような権限はない。

りな旧式スキャナの電源を入れる。高橋さんに目配せをしてドアを開け、そちらの大掛かないドアに向かって親子連れを先導した。同シフトの

女の子が倒れていた。反射的に支給のレシーバーに手側を振り返ると、マットレスにカエルのように潰れてくると、ぼすんという大きな音がした。慌ててそちら無事に親子が入場したのを見届けてドアから戻って

私は息を吐き出した。この職場はあまり心臓によく一緒に歩いていた。

に女の子は立ち上がり、一緒に来たと思しき男の子とが伸びるが、救護センターへのホットラインを繋ぐ前

ルな電飾のような愛嬌はない。しかしそこは既にアミ エントランスは殺風景で、 問四 2 b 潜入型の語り手 出口ドアから覗くカラフ

ューズメントパークの園内である。

その回る動きも、すでに入場料を払っているのだか 銀の半円リングが回っている。

虹をくぐった先の魔法の国、霧を抜けた先の不思議の 飾り立てられた非日常への門。銀の半円リングに

非日常へと向かう装置で、来園者の期待を掻き立てる

アトラクションの一部と言えなくもない。それは

いものだ。VRアミューズメント施設では実際に体を に送る。その動き自体が、日常生活では目にかかれな だ大人の子供のスキャンし、その現し身をデータ世界 並んだカメラがきらきらと照明を反射して、飛び込ん

動かす機会は多くない。このジャンプして飛び込むと

ったかもしれない。

いう動きは、たしかに一番大きなアトラクションであ

飛び込んでいく客を保安員が見守っている。

く球の中央を通る。しかし時折、勢いあまった子供達 正するのでだいたいの人間はきれいに半円リングの描 み台代わりのトランポリンが打ち上げ角度と速度を補

ズで飛び込もうがデータ構築を失敗することはない。 メラでスキャンデータを補正するので、多少変なポー リングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カ や、おっかなびっくりすぎて勢いの足りない大人達は

しでもしたらそのスキャナは半日はメンテに時間を取 しかし、彼らがうっかりカメラにかすってレンズを汚

られる。保安員が指導されているのは、そのような事

時間を延ばして、沢山の客を捌く。そのためにはスキ 態を避けることだ。できるかぎりスキャナの安定稼働 ャナを怖がる子供、うまく飛べそうにない大人、そう

いったものを手短に別室へ案内することも含まれる。 マニュアルでは、 別室扱いの客が出た時のためにペ

アで保安員を配置するよう記されている。

エントランスは殺風景で、撤去された機材の跡が黒

当事者の記憶の中にある。それこそが、 は実際に運用される前の状態であった。 ャの導入事例としてカタログには載っているが、それ いので、広告用の園内写真もない。サイクルキャプチ ずんだ枠となって残っている。アトラクションではな 唐木田がこの 当時の面影は

場所を選んだ理由だった。

「当日の様子を話していただけますか?」 無理もない。 高橋という名の元従業員は、

エントラ

み割り当てられているが、事故が起きた時の第一応答 していた。当時のシフト表ではスキャナールームにの ンスのスキャナールームとレセプションの両方を担当

めぐる訴訟は続いている。唐木田がこの場で有効な証 といったかが部屋を外しているときの出来事だった。 者は彼女だったのだ。もう一人の保安員、たしか宮垣 まだサイクルキャプチャの開発元と、事故の責任を

かった。少なくともその点で、二人の利害は一致して 込むだろう。高橋も唐木田も、そのシナリオは避けた 言を引き出すことができなければ、あと数年はもつれ

いた。

の事例が念頭にありました。回転体に人間を接触させ 余談ですが、 書いているときは過去の回転ドア事故

れた線を隠しきれてはいない。

げて緑のジャケットの女性が頷いた。化粧でも、やつ

唐木田が振り返ると、機材の跡の染みから目線を上

ります」

わざわざこちらまでいらして頂き本当に感謝してお

なり高速化しているので特段優位性もなさそうです。即禁止されるものです。現実の3Dスキャン技術はかこんなアホみたいなシステムの装置は人が死ぬ以前にるのは大変危険なので安全管理は徹底されるべきだし、

視点と語りの声 3

問一 3a 三人称限定①

唸りに重なって、周期的に繰り返す。メトロノームみ しゅわん、と風を切る音がする。低いぶーんという

刺さる。行列を進んでいくたびに、音は大きくなって

列の先では、男がトランポリンに向かって小走りに

たいに正確で、テストのときの秒針みたいに耳に突き

りと髪が逆立つあいだに、足下を半円リングが通り抜 駆けていった。沈み込んで大きく跳ねて、中空でふわ ける。隣のマットレスに着地して、男は出口に向かっ

にマットレスの感触。

て先導する。大人だと大体三歩、弟の背丈ならだいた でも弟はもう駆けだしていた。床面の矢印が点滅し っちへ行きたかった。弟の手前でさえなければ。 バリアフリーの入場ゲートへ案内されていた。悠もそ やだと泣き叫び、

挙句両親もスタッフも手を上げて、

悠と大して歳も違わない子供は、あんなの無理、

絶対

る音がずっと右から下から左から――そして膝に足 駆けだして、視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切 なるのも一瞬だった。考える暇もなく、息を止めて、 リズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭に い五歩、つまり悠もそれぐらい。廊下を駆けるときの

けるのを見た。 る。悠は口を引き結び、振り向いて円リングが回り続 膝と手を着いた着地をまじまじと見る弟をねめ

ることは、悠にはまだ信じられない。

回転する金属の半円リングをジャンプして通り抜け

さっきまで並んでいた家族連れを悠は思い返した。

通り抜けた。無事に。みんなそうしてるみたいに。

つつけ

していられるの?しも転んだりして当たったら。どうしてみんな平然としも転んだりして当たったら。どうしてみんな平然とと、内側にずらりと並んだレンズ――あんなの、もでも内側から見えた半円リングの頑丈そうな枠の残像

問一 3 a 三人称限定②

も力強さがわかる。啓が横に一歩踏み出して列からず部屋には低いモーター音が響いていて、靴裏からで

襟を引っ張る姉はいつもよりも不機嫌だ。こういうと背中に感じる圧力に啓は振り返って、列に戻った。で描く球は啓が五人入ってもおつりがきそうだった。ープよりも、ずっと大きい。半円のフレームが一回転でも――啓が見 たことのある本物のジャイロスコ

を変えないし、リングも一本、それも半分だけだ。ジャイロスコープモドキは本物みたいにくるくる向きと、その間をぐるりと回る銀色の残像がのぞく。このれると、、綿シャツの背中の向こう側にフレーム基部

のこれで目伝えてはない。 これには、 でにっぱせ、 助走をつけてジャンプすると、半円のフレームがまして向こう側を見ようとする。

バリアみたいだ。自分の番が来たときのことを、啓はわりを一回転して球をつくる。人が跳ぶとできる球は助走をつけてジャンプすると、半円のフレームがま

トランポリンのばねで高くジャンプする。浮遊感と啓は駆けだしていた。のまで、ま置が遮られずに見える。寒族の一団が列から抜けて列が一気に進む。視界を考える。ちゃんとバリアの中心にいるだろうか?

での期間限定だけど。じられる。バリアってこういうことなんだ。次の人まレンズがきらきらしている、その全部がコマ送りで感回転するフレームのなめらかな音、フレームの内側で

着地した啓が出口に向かって歩きだすと、ぼすんと

知っていた。仕方ないので列から動かずに、首を伸ば

きの姉を刺激しないほうがいいことを、啓は経験から

って、啓は口をとがらせる。早く出口行こうよ。が合うのはなんだか気まずい。顔をそらした姉に向かいう柔らかい音がした。姉だ。着地を失敗した姉と目

サイクルキャプチャ©のアーチが回っている。 ◆ 問二 3a 遠隔型の語り手

サイクルキャプチャ®は、対象が動いてくるのを毎分回転4~48の範囲で回転している。かい5メートルに設置された軸受けで水平に保持されかい5メートルに設置された軸受けで水平に保持され

部へ跳びこむことを要求する。図式としては

附帯設備の可動トランポリンは、そ

儀の弓を思い起こさせる半円の金属アーチは、差し向

アーチ内側の高速度カメラは一回転で30~40枚の人体の加速度になるよう補正して回転部へと打ち上げる。こに踏み込んだ人間の重量と慣性を測定制御し、一定

大縄跳びに近い。

に突入する際の速度から映像中の重心位置を補正し、

を撮像する。

サイクルキャプチャ®は

《再構成圏内》

っている。

然ながら事故の可能性で物議を醸した。だが一度に人80個のカメラを把持する金属アーチの回転体は、当カメラ映像から三次元形状を再構成する。

クルキャプチャ©へ飛び込む親子連れも、年齢制限を下施設においてはほぼ必須の設備と化している。サイ《生身のような没入感》をうたうVRアミューズメンを捌ける速度は同様のスキャナーの追随を許さず、

地球

モーションセンサはトランポリンとアーチ部へ近づする銀の大縄へ跳びこみ、スキャンを終えて出ていく超えたばかりの子供たちも、何事もない顔をして回転

低速の静止スキャン設備へ案内するのが主な仕事になぱ少ない。安全性に懸念を示す親や、怖がってジャンはがない。安全性に懸念を示す親や、怖がってジャン止ボタンの本来の使用者である常駐保安員のやること止ボタンの

った異音もなく、いまのところ安定していた。 先週交換したばかりのアーチ部は、事前に苦情のあ

4

いう評をわりといただいた実作で、それはその通りだうのが問一段階では取りにくい(問二でわかった)とギミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、とい

◆ 問三 3a 傍観型の語り手整理がかなり大変だと思いました。

的とした場合、子供の視点を通して伝えるのは情報の

と思います。未知の情報を読者に提示することを主目

ートを蹴りつけ続け――背中を椅子越しにリズミカその子供は届かない床に地団駄する代わりに前面のシ機内のことを思い起こさせる。何が気に障ったのか、

髙橋さんに目配せをしてドアを開け、そちらの大掛か

ないドアに向かって親子連れを先導した。同シフトのようににっこりと笑うと、私は部屋の端にある目立た

のだ。
のだ。
のだ。
のだ。
のだ。
としている親が浮かべているのと同じもたかもしれない。一睡もできなかったけれど。着陸時たかもしれない。一睡もできなかったけれど。着陸時のだ。

て赤くなった目でこちらを見上げてくる。安心させると、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らし 学定もたたないだろう。とはいえ、私のような雇われ 学定もたたないだろう。とはいえ、私のような雇われ 保安員に彼らを追い出すような権限はない。 少し時間がかかりますが、という前置きして告げる と、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らし と、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らし と、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らし

無事に観子が入場したのを見届けていりな旧式スキャナの電源を入れる。

女の子が倒れていた。反射的に支給のレシーバーに手側を振り返ると、マットレスにカエルのように潰れてくると、ぼすんという大きな音がした。慌ててそちら無事に親子が入場したのを見届けてドアから戻って

一緒に歩いていた。 に女の子は立ち上がり、一緒に来たと思しき男の子とが伸びるが、救護センターへのホットラインを繋ぐ前

い。私は息を吐き出した。この職場はあまり心臓によく

ルな電飾のような愛嬌はない。しかしそこは既にアミエントランスは殺風景で、出口ドアから覗くカラフ

問四 3 a

潜入型の語り手

ったかもしれない。

その回る動きも、すでに入場料を払っているのだかや、銀の半円リングが回っている。と球ューズメントパークの園内である。正すって、

国、飾り立てられた非日常への門。銀の半円リングに虹をくぐった先の魔法の国、霧を抜けた先の不思議の非日常へと向かう装置で、来園者の期待を掻き立てるら、アトラクションの一部と言えなくもない。それは

並んだカメラがきらきらと照明を反射して、飛び込ん

いう動きは、たしかに一番大きなアトラクションであ動かす機会は多くない。このジャンプして飛び込むといものだ。VRアミューズメント施設では実際に体をいものだ。VRアミューズメント施設では目にかかれなだ大人の子供のスキャンし、その現し身をデータ世界

や、おっかなびっくりすぎて勢いの足りない大人達はく球の中央を通る。しかし時折、勢いあまった子供達正するのでだいたいの人間はきれいに半円リングの描み台代わりのトランポリンが打ち上げ角度と速度を補飛び込んでいく客を保安員が見守っている。踏み込

リングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カリングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カリングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カリングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カリングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カリングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カリングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カリングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カリングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カリングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カリングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カリングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カリングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カリングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カリングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カリングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カリングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カリングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カリングの外縁に近付いてします。

「当日の様子を話していただけますか?」
「当日の様子を話していただけますか?」
唐木田が振り返ると、機材の跡の染みから目線を上れた線を隠しきれてはいない。

場所を選んだ理由だった。

当事者の記憶の中にある。それこそが、唐木田がこのは実際に運用される前の状態であった。当時の面影はゃの導入事例としてカタログには載っているが、それ

といったかが部屋を外しているときの出来事だった。者は彼女だったのだ。もう一人の保安員、たしか宮垣み割り当てられているが、事故が起きた時の第一応答していた。当時のシフト表ではスキャナールームにのンスのスキャナールームとレセプションの両方を担当

無理もない。高橋という名の元従業員は、エントラ

いので、広告用の園内写真もない。サイクルキャプチ

ずんだ枠となって残っている。アトラクションではな

エントランスは殺風景で、撤去された機材の跡が黒

いた。 かった。少なくともその点で、二人の利害は一致して 込むだろう。高橋も唐木田も、そのシナリオは避けた 言を引き出すことができなければ、あと数年はもつれ

めぐる訴訟は続いている。唐木田がこの場で有効な証 まだサイクルキャプチャの開発元と、事故の責任を

いく。 駆けていった。沈み込んで大きく跳ねて、中空でふわ 刺さる。 列の先では、男がトランポリンに向かって小走りに 行列を進んでいくたびに、音は大きくなって

たいに正確で、テストのときの秒針みたいに耳に突き

て歩いていく。 ける。隣のマットレスに着地して、男は出口に向かっ りと髪が逆立つあいだに、足下を半円リングが通り抜 回転する金属の半円リングをジャンプして通り抜け

ることは、悠にはまだ信じられない。

の事例が念頭にありました。回転体に人間を接触させ

余談ですが、

書いているときは過去の回転ドア事故

さっきまで並んでいた家族連れを悠は思い返した。

バリアフリーの入場ゲートへ案内されていた。悠もる やだと泣き叫び、 悠と大して歳も違わない子供は、あんなの無理、絶対 っちへ行きたかった。弟の手前でさえなければ。 挙句両親もスタッフも手を上げて

でも弟はもう駆けだしていた。床面の矢印が点滅

唸りに重なって、周期的に繰り返す。メトロノームみ

しゅわん、と風を切る音がする。低いぶーんという

なり高速化しているので特段優位性もなさそうです。 即禁止されるものです。現実の3Dスキャン技術はか こんなアホみたいなシステムの装置は人が死ぬ以前に るのは大変危険なので安全管理は徹底されるべきだし

問一 3b 三人称限定①

にマットレスの感触。 の音がずっと右から下から左から―― そして膝に足駆けだして、視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切なるのも一瞬だった。考える暇もなく、息を止めて、りズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭にい五歩、つまり悠もそれぐらい。廊下を駆けるときのい五歩、つまり悠もそれぐらい。廊下を駆けるときの

て先導する。大人だと大体三歩、弟の背丈ならだいた

けるのを見た。 る。悠は口を引き結び、振り向いて円リングが回り続を手を着いた着地をまじまじと見る弟をねめつけ

しも転んだりして当たったら。どうしてみんな平然とと、内側にずらりと並んだレンズ―― あんなの、もでも内側から見えた半円リングの頑丈そうな枠の残像通り抜けた。無事に。みんなそうしてるみたいに。

していられるの?

して向こう側を見ようとする。

助走をつけてジャンプすると、半円のフレームがま

問一 3b 三人称限定②

と、その間をぐるりと回る銀色の残像がのぞく。このれると、、綿シャツの背中の向こう側にフレーム基部も力強さがわかる。啓が横に一歩踏み出して列からず部屋には低いモーター音が響いていて、靴裏からで

ジャイロスコープモドキは本物みたいにくるくる向き

知っていた。仕方ないので列から動かずに、首を伸ばあっていた。仕方ないので列から動かずに、首を伸ばきの姉を刺激しないほうがいいことを、啓は経験からで描く球は啓が五人入ってもおつりがきそうだった。背中に感じる圧力に啓は振り返って、列に戻った。である本物のジャイロスコープよりも、ずっと大きい。半円のフレームが一回転で描く球は啓が五人入ってもおのジャイロスコープよりを変えないし、リングも一本、それも半分だけだ。

バリアみたいだ。自分の番が来たときのことを、 わりを一回転して球をつくる。人が跳ぶとできる球は 啓は

啓は駆けだしていた。 遮るシャツの背中が減る。装置が遮られずに見える。 考える。ちゃんとバリアの中心にいるだろうか? 家族の一団が列から抜けて列が一気に進む。視界を

での期間限定だけど。 じられる。バリアってこういうことなんだ。次の人ま レンズがきらきらしている、その全部がコマ送りで感 回転するフレームのなめらかな音、フレームの内側で トランポリンのばねで高くジャンプする。浮遊感と

が合うのはなんだか気まずい。顔をそらした姉に向か いう柔らかい音がした。 て、啓は口をとがらせる。早く出口行こうよ。 着地した啓が出口に向かって歩きだすと、ぼすんと 姉だ。着地を失敗した姉と目

> 儀の弓を思い起こさせる半円の金属アーチは、差し向 サイクルキャプチャ©のアーチが回っている。 問二 3b 遠隔型の 語り手

毎分回転84~8の範囲で回転している。 かい5メートルに設置された軸受けで水平に保持され、 サイクルキャプチャ®は、 対象が動いてくるのを

こに踏み込んだ人間の重量と慣性を測定制御し、一定 大縄跳びに近い。附帯設備の可動トランポリンは、 内部へ跳びこむことを要求する。図式としては

の加速度になるよう補正して回転部へと打ち上げる。

カメラ映像から三次元形状を再構成する。 に突入する際の速度から映像中の重心位置を補正 を撮像する。サイクルキャプチャ©は アーチ内側の高速度カメラは一回転で30~40枚の人体 然ながら事故の可能性で物議を醸した。だが一度に 80個のカメラを把持する金属アーチの回転体は、 《再構成圈内》

《生身のような没入感》をうたうVRアミューズメンを捌ける速度は同様のスキャナーの追随を許さず、

く人間を検知し静止するよう設定されており、緊急停する銀の大縄へ跳びこみ、スキャンを終えて出ていく。超えたばかりの子供たちも、何事もない顔をして回転超えたばかりの子供たちも、何事もない顔をして回転上施設においてはほぼ必須の設備と化している。サイト施設においてはほぼ必須の設備と化している。サイ

止ボタンの本来の使用者である常駐保安員のやること

うのが間一段階では取りにくい(間二でわかったギミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、

的とした場合、子供の視点を通して伝えるのは情報のと思います。未知の情報を読者に提示することを主目いう評をわりといただいた実作で、それはその通りだうのが問一段階では取りにくい(問二でわかった)と

整理がかなり大変だと思いました。

 っている。

低速の静止スキャン設備へ案内するのが主な仕事になプできない子供たち、跳びこむ動きが困難な利用者をは少ない。安全性に懸念を示す親や、怖がってジャン

・問三3b 傍観型の語り手

の世の終わりのように泣き叫ぶ子供は、いつかの飛行んとした泣き声の発生源に、意を決して近づいた。こ一日ぶり十六件目。私は部屋に響き渡るぎゃんぎゃ

機内のことを思い起こさせる。何が気に障ったのか、

をなだめようとしている親が浮かべているのと同じもに目が合った両親の申し訳なさそうな表情は、今子供たかもしれない。一睡もできなかったけれど。着陸時ルに叩きつけられるのは、まあマッサージとでも思えートを蹴りつけ続け――背中を椅子越しにリズミカその子供は届かない床に地団駄する代わりに前面のシ

のだ。をなだめようとしている親が浮かべているのと同じも

予定もたたないだろう。とはいえ、私のような雇われメントパークに入れずに門前払いされては今日一日の威圧感を覚えたのか、彼らの顔が強張る。アミューズ近づいてくる強面の制服を着た保安員、つまり私に

ようににっこりと笑うと、私は部屋の端にある目立たて赤くなった目でこちらを見上げてくる。安心させると、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らしと、安頃に彼らを追い出すような権限はない。

りな旧式スキャナの電源を入れる。高橋さんに目配せをしてドアを開け、そちらの大掛かないドアに向かって親子連れを先導した。同シフトの

女の子が倒れていた。反射的に支給のレシーバーに手側を振り返ると、マットレスにカエルのように潰れてくると、ぼすんという大きな音がした。慌ててそちら無事に親子が入場したのを見届けてドアから戻って

私は息を吐き出した。この職場はあまり心臓によく一緒に歩いていた。

が伸びるが、救護センターへのホットラインを繋ぐ前

文体操舵記録

エントランスは殺風景で、 問四3b 潜入型の語り手

出口ドアから覗くカラフ

ルな電飾のような愛嬌はない。しかしそこは既にアミ

ューズメントパークの園内である。 銀の半円リングが回っている。

その回る動きも、すでに入場料を払っているのだか

アトラクションの一部と言えなくもない。それは

非日常へと向かう装置で、来園者の期待を掻き立てる 虹をくぐった先の魔法の国、霧を抜けた先の不思議の 飾り立てられた非日常への門。銀の半円リングに

いものだ。VRアミューズメント施設では実際に体を に送る。その動き自体が、日常生活では目にかかれな だ大人の子供のスキャンし、その現し身をデータ世界 並んだカメラがきらきらと照明を反射して、飛び込ん

動かす機会は多くない。このジャンプして飛び込むと

ったかもしれない。

いう動きは、たしかに一番大きなアトラクションであ

み台代わりのトランポリンが打ち上げ角度と速度を補 飛び込んでいく客を保安員が見守っている。

しでもしたらそのスキャナは半日はメンテに時間を取 しかし、彼らがうっかりカメラにかすってレンズを汚 ズで飛び込もうがデータ構築を失敗することはない。 メラでスキャンデータを補正するので、多少変なポー リングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カ や、おっかなびっくりすぎて勢いの足りない大人達は く球の中央を通る。しかし時折、勢いあまった子供達 正するのでだいたいの人間はきれいに半円リングの描

時間を延ばして、沢山の客を捌く。そのためにはスキ 態を避けることだ。できるかぎりスキャナの安定稼働 ャナを怖がる子供、うまく飛べそうにない大人、そう

られる。保安員が指導されているのは、そのような事

いったものを手短に別室へ案内することも含まれる。 マニュアルでは、 別室扱いの客が出た時のためにペ

アで保安員を配置するよう記されている。

エントランスは殺風景で、撤去された機材の跡が黒

場所を選んだ理由だった。 当事者の記憶の中にある。それこそが、 は実際に運用される前の状態であった。 ャの導入事例としてカタログには載っているが、それ 唐木田がこの 当時の面影は

いので、広告用の園内写真もない。サイクルキャプチ ずんだ枠となって残っている。アトラクションではな

げて緑のジャケットの女性が頷いた。化粧でも、やつ ります」 わざわざこちらまでいらして頂き本当に感謝してお 唐木田が振り返ると、機材の跡の染みから目線を上

いた。

れた線を隠しきれてはいない。

「当日の様子を話していただけますか?」 無理もない。

ンスのスキャナールームとレセプションの両方を担当 高橋という名の元従業員は、 エントラ

していた。当時のシフト表ではスキャナールームにの

といったかが部屋を外しているときの出来事だった。 者は彼女だったのだ。もう一人の保安員、たしか宮垣 み割り当てられているが、事故が起きた時の第一応答 まだサイクルキャプチャの開発元と、事故の責任を

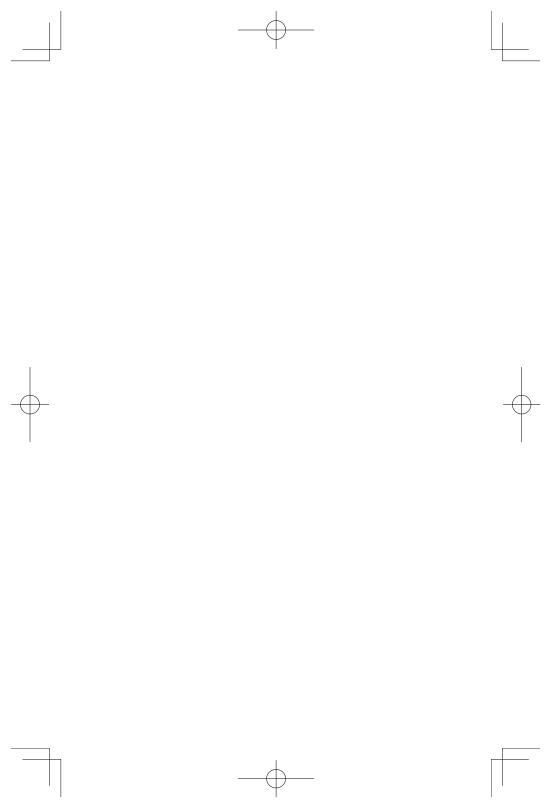
かった。少なくともその点で、二人の利害は一致して 込むだろう。高橋も唐木田も、そのシナリオは避けた 言を引き出すことができなければ、あと数年はもつれ めぐる訴訟は続いている。唐木田がこの場で有効な証

余談ですが、

の事例が念頭にありました。回転体に人間を接触させ 書いているときは過去の回転ドア事故

文体操舵記録

なり高速化しているので特段優位性もなさそうです。即禁止されるものです。現実の3Dスキャン技術はかこんなアホみたいなシステムの装置は人が死ぬ以前にるのは大変危険なので安全管理は徹底されるべきだし、



文体操舵録

2022/07/13 初版発行

著者 あやふや

Telecocoon, Ltd. 発行

https://telecocoon.netlify.com

組版

vivliostyle-jppb https://github.com/ayhy/vivliostyle-

jppb

電子版なので乱丁落丁の代わりに誤字脱字がありま す。ご容赦ください。